

烏川扇状地と西山山麓の里山文化

烏川の扇頂部の地形を生かして育まれてきた暮らしの知恵と様々な恵み

烏川谷の出口一帯は、山からの水と森からの恵みを享受できる場所ですが、扇頂部で礫も多く水温も低く地形も複雑なため、安定した稲作には工夫が必要な土地でした。長い年月をかけて先人たちが編み出してきた利水の工夫・苦勞の痕跡や山からの恵みも活かした文化、技術などが生まれ、常念岳を背景に全国にも誇れる里山環境が保たれています。



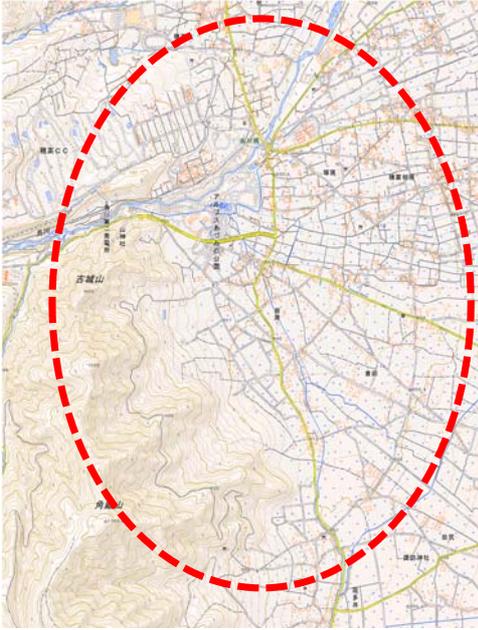
常念岳と山麓の水田



山裾の棚状の地形

協定団体：岩原の自然と文化を守り育てる会

項目	内容
環境の土台 里山	<ul style="list-style-type: none"> ○烏川水系の扇状地・扇頂部 ○烏川谷の出口(冷たい水、礫が多く貧相な土壌) ○桑やクヌギの林を主体とした土地利用
物語と構成要素	<ul style="list-style-type: none"> ○安曇平の水田の聖地 <ul style="list-style-type: none"> ・1000年以上前の古墳群 ○先人たちのつくりあげた様々な『水』に支えられている暮らし <ul style="list-style-type: none"> ・烏川の水の分け口(五力堰、岩原堰等) ・山の水はため池としても活用(白池堤等) ・「どんぶら」「ぬるめ」を設け水をあたためて利用する稲作 ○時の有力者も目を付けた土地自然 <ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代の堀金氏の山城となった岩原城 ・大庄屋山口家(烏川の水、西山との結び付き) ○『ヤマ』からの恵みを活かす里山環境・半自然環境 <ul style="list-style-type: none"> ・傾斜地の棚田の畔の多様な野草(オオルリシジミの繁殖地) ・烏川の上流には採草地・牧場・山仕事の守り神の山神社 ・風穴による蚕種の保存・くれ木の産地・石灰石の産出
産業の関係・課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○生業のなかで育まれてきた文化・技術等の継承が課題 ○国営公園や地元の団体等が連携して地域づくりを推進
市民活動等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○岩原の自然と文化を守り育てる会 ○塚原地域づくり振興会 ○国営アルプスあづみの公園との連携活動 さとやま楽校(やまこの学校・クラフトゲート匠の森)



常念岳とれんげ畑



国営公園のれんげ畑と山口家の屋敷林



古墳の発掘調査



烏川からの取水



岩原堰の水



オオルリシジミと食草クララ



岩原城見取図



大庄屋山口家



国営公園内での田植え体験